

人文学部卒業研究

題 目 100年後の高校野球

指導教授 小川 順子

印

提出年月日 2018年 12月 13日

学籍番号 HI15041

氏 名 柘植 清明

お願い

本卒業研究は、著作権の関係上、指導教員または執筆者本人の許可を得たうえでの閲覧のみを許可し、複写およびPDF等によるデータの受け渡し等は、一切禁止する。

万が一、禁止が破られトラブルが発生した場合、本卒業研究の関係者は一切の責任は負わない。

何卒ご了承ください。

「100年後の高校野球」

HI15041 柘植清明

要旨

本論の目的は、高校野球審判委員を務める筆者の特性を活かし、高校野球を後世へ継承していくための課題を様々な視点から調査するものである。全国高等学校野球選手権大会（甲子園大会）は今年度第100回記念大会を迎えた。甲子園大会はテレビやラジオ、新聞などのメディアに取り上げられ、高校の部活動のひとつでありながら日本中から注目されている。この高校野球には教育の一環という前提があり、野球を通じて人間力を養うことを目的としている。また、審判委員は選手たちの指導者という立場で、試合運営を司りながら選手の模範となる姿を見せている。一方で、教育の一環という理由だけでガッツポーズが禁止されていたり、道具の商標が規制されていたりするなど、現代社会では疑問に思えるような制約が多数存在している。

本論では、審判委員を含む高校野球当事者と、元選手や父母会などこれまで高校野球と関わりのあった人たち、さらに観客など高校野球運営に直接関わりのない人たちとの間で高校野球に対する認識に大きな違いがあると仮定し、審判委員や大会役員へ聞き取り調査、元高校球児や父母会経験者、野球未経験者などへアンケート調査を行った。

第1章では、高校野球の加盟校数や部員数の推移と審判委員の現状について述べている。加盟校と部員数はともに緩やかな減少が続いている反面、入学から卒業まで野球部に在籍する「継続率」が今年度は過去最高記録となっていることが分かった。また、審判委員も減少が続いているが、審判委員に関する制度が都道府県ごとに異なることも分かった。

第2章では、審判委員や大会役員への取材結果、一般大衆へのアンケート結果をまとめている。ベテラン審判委員や大会役員は、高校野球のあり方について肯定的な見解を示したが、若手の審判委員を中心に時代に合わせた変化を求める意見があった。また、教育の一環について話題になる要因として選手のガッツポーズをメディアが取り上げていることが要因ではないかという意見もあった。さらにアンケート調査では、大人たちが選手の周りの環境を整備することや、高校野球以前に高校が学びの場として確実に機能しているか調査することが重要だという回答があった。

高校野球を後世へ継承していくためには、時代に合った制度に変えていくこと、審判委員や大会役員の認識を全国で統一すること、そして高校自体の機能を再確認することが重要ではないかと考える。

キーワード

高校野球 審判 甲子園 部活動 教育

目次

序論	1
第1章 高校野球の実情	4
第1節 加盟校や部員数の推移	4
第2節 審判委員の制度と現状	5
第2章 分析結果	9
第1節 審判委員・大会役員への取材結果	9
第2節 アンケート結果	12
第3節 第100回全国高等学校野球選手権記念大会であった出来事	14
第3章 分析結果から見える高校野球の課題と将来について	16
結論	17
参考文献	19
参考サイト	19
付録1 アンケート用紙	i
付録2 野球の主なルールと高校野球における特記事項	ii